



TITLE:

開会挨拶

AUTHOR(S):

山極, 壽一

CITATION:

山極, 壽一. 開会挨拶. 京都大学附置研究所・センターシンポジウム: 京都からの提言- 21世紀の日本を考える (第10回) 「活力ある未来の "想像" と新たな展開を求めて」 2015, 10: 1-2

ISSUE DATE:

2015-03-14

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/216964>

RIGHT:

開会挨拶

京都大学総長 山極 壽一



皆さん、おはようございます。京都大学総長の山極でございます。本日は、ようこそおいでいただきました。京都大学附置研究所・センターシンポジウム、京都大学広島講演会の開催に際し、一言ご挨拶申し上げます。

京都大学は1897年に創設され、「自重自敬」の精神に基づき、常識にとらわれない自由な学風をはぐくみ、個性的で創造的な学問の世界を切り開いてきました。

一方、世界は20世紀には想像もしなかったような急激な変化を経験しつつあり、それらを乗り越えるパラダイムシフトが求められておりますが、それらに応じて、地球社会や調和ある共存に貢献することが、京都大学の重要な目標と考えております。

本学には、10学部18大学院に加え、文系理系合わせ日本最多を誇る14の研究所と17のセンター等があり、約3000名の教員のうち、約700名が附置研究所と研究センターに所属しております。

京都大学の関係者で、ノーベル賞と数学のフィールズ賞の受賞者は11名おりますが、そのうち6名は附置研究所に在籍しているか在籍していた教員です。

昨年9月に、理化学研究所と先端医療センター病院において、iPS細胞を用いた世界初の再生医療が実施されましたが、これに続き、京都大学iPS細胞研究所では、今年1月にパーキンソン病を治療する臨床研究計画を発表いたしました。臨床応用が進めば、iPS細胞による治療では2例目になり、今後の再生医療に弾みがつきそうです。このような成果は、京都大学の附置研究所と研究センターでの基礎研究を抜きにして語ることはできません。

また、基礎研究ばかりでなく、附置研究所と研究センターでは、文系と理系の多様な連携と融合を通して、新分野の創出にも積極的に取り組んでおります。それらの研究成果を社会に還元したいという思いから、本シンポジウムは発足したと伺っております。

平成17年度に第1回を東京で開催して以降、大阪、横浜、名古屋、福岡、京都、神戸、札幌、仙台と年1回開催し、第10回目の広島での開催で一巡目を締めくくる運びとなりました。この10に年わたるシンポジウムでは、一貫して「京都からの提言～21世紀の日本を考える～」を掲げ、日ごろの研究成果を発表するだけでなく、それを基礎として、21世紀の日本が進むべき方向や未来を担う若者へのメッセージ等を参加された方々に向けて発信することに重きを置いてまいりました。

本日のシンポジウムでは、約120万人の人口を有する広島市での開催というご縁で、広島大学から浅原利正学長にお越しいただくとともに、広島大学高等教育研究開発センター

副センター長の大場淳先生から「高等教育の未来を考える」と題して、ご講演いただけることになりました。深く感謝いたします。

京都大学の附置研究所と研究センターからは4名の教授が、放射線障害、野生動物との共存、社会のレジリエンシー（柔軟対応力）、数学を切り口として研究にかける熱い思いや社会へのメッセージを出来る限りやさしい言葉でお伝えいたします。

今日、日本経済は回復の兆しはあるものの、大震災や原発事故の復旧・復興も道半ばであり、加えて昨年、この広島でも発生いたしました異常気象に伴う想定外の自然災害の多発、一千兆円を超える政府債務残高、東アジア諸国との困難な外交関係、世界的な民族・宗教間の対立など、深刻な社会情勢は枚挙にいとまがありません。

このような中で、文系理系にかかわらず大学のあるべき姿、その中で大学の役割や責務は何なのかが、いま強く問われていると思います。そこで自由な発想や新しい価値を“創造”してきた京都大学らしさとは何かを“想像”力まで遡って追究し、それを源泉として今後もたくましく発展していくことを趣旨として、今回のテーマを「活力ある未来の“想像”と新たな展開を求めて」といたしました。講演をいただく先生方には、様々な視点から、それぞれの研究成果や考えをお話しいただけることと期待しております。

さらにもう一つ、前回の第9回シンポジウムの新しい試みとして、地元教育委員会の後援を得て、未来を担う高校生に多数参加いただきました。それが非常に好評を得ましたので、今回も広島県教育委員会の後援を受け、広島県内の高校生の参加者を募るとともに、中学・高等学校の教員の方々にも積極的に声をかけさせていただきました。

県内各校にシンポジウムについてお知らせした際に、先生方からは、生徒が将来を目指す方向や夢を模索するにあたり、このようなシンポジウムは視野を広げるためのよい機会となるとの話をいただき、本シンポジウムの開催意義を再認識しております。ぜひ中・高生の皆さんには、本学が誇る研究所・センターの新しい世界の最先端の研究をご覧いただき、将来に夢を託していただきたいと思います。

また、広島県下で活躍しておられます本学卒業生で構成される同窓会「広島京大会」のご支援もいただくことができました。本シンポジウム開催を機に、この地における本学卒業生を通じて、皆様とのさまざまな交流が、今後一層、発展することを願っておる次第でございます。

おって本シンポジウムは、京都大学が全国で展開してまいりました京都大学地域講演会という位置付けの「京都大学広島講演会」としても開催しておりますことを申し添えます。

最後になりますが、本日お集まりいただいた皆様に感謝を申し上げますとともに、自由の学風を重んじる教育研究活動から生み出された「京都からの提言」に耳を傾けてくださいますようお願い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。